

ミライツクル 日本大学での学び



あなたのミライをひらく 「自主創造できる人」を目指そう！

大学で学ぶということ

❖ 目的を持って、多くの経験を積み重ねよう

多くの人にとっては、日本大学の在学期間が、社会に出る前の最後の学びの期間となることでしょう。「教わる」「覚える」が多かった高校までと違い、大学は自ら「調べる」「考える」「答えを見いだす」ことが主体になります。皆さんが自立した大人で、本当の意味での「学び」ができると認めるからこそ、こうした大学の学修*が成り立ちます。「自ら考え、答えを見いだす」のは社会でも同じ。大学で学ぶことはつまり、将来の準備期間であるともいえるのです。

言い換えれば、単に専門の知識や技能を身に付けるだけでは不十分ということ。例えばあなたが建築業界を志望しているとします。そこでは、建築士資格などの建築に関わる専門的な知識や技能が必要ですが、「仕事」の場面を考えれば、顧客のニーズを正確に把握することも大切です。また、経済の動向や地域によって異なる価値観・文化、建設による環境問題への影響など、社会全体にも目を向けていなければ真に求められる人材になることはできないでしょう。社会との結びつきを理解し、実践力を身に付けていくためには、単に教科書を覚えるだけで

学修

大学で“学び”，教育課程（規定のカリキュラムや技能を学ぶ課程）を“修める”こと。学部等ごとに定められた「教育研究上の目的」を達成するための「学ぶ行動」のことでもある。知識や経験を蓄える「学習」とは区別して用いられる。

は不十分です。友人や教員と様々な事柄について議論をし、多様な価値観を受け入れる能力を、日々の授業の積み重ねにより身に付け、自らの“キャリア”とする必要があります。日本大学ではそのような積み重ねの教育を重視した授業を編成・提供し、学生生活をサポートします。

まずは、どのような自分になりたいのか、そのためにはどのような経験を積みばいいのかを考えてみましょう。これから何を、どう学んでいくか、方向性が見えてくるはずですよ。

❖ 批判的なものの見方を身に付けよう

「自ら学ぶ*」ということは、「答えのない問い」に対し自ら考え抜くことでもあります。

大学の学びでは、批判的にものを見ることが重要です。それは「非難する」ことではなく、どのような事実や根拠に基づいているのかを確かめ、他者の意見を多面的・客観的に理解した上で、自らの考えを立てること。そのためには、他者の意見に耳を傾ける、得た情報を冷静に整理する、自分の意見を持つ姿勢が必要です。

❖ 多様な友人との出会いを楽しもう

日本大学には全国・海外から、様々な目的や意志を持った学生が集まっています。様々な授業やクラブ・サークルなどで、多くの人々と出会うことでしょう。自分とは異なる意見や価値観に出会い、あなたの考えが変化するかもしれません。多くの友人をつくり、学生生活を楽しむことも「自主創造」の一つ。学部・学科の外に出て、行動を広げていきましょう。



「自ら学ぶ」 「自ら考える」 「自ら道をひらく」

日本大学教育憲章（P.9）に明示された、自主創造のための3つの構成要素のこと。これらを支える8つの能力を身に付けられるように、本学の教育は行われている。



「自主創造」のための道を示す 日本大学教育憲章

1 「自主創造」とは、何か

皆さんの中に、日本大学が掲げる「自主創造」という言葉の意味を知っている人はいるでしょうか？

平成 19（2007）年度に日本大学の教育理念を「自主創造」と決めました。これは 130 年を超えてなお、創立時の理念を現代に受け継ぐものでもあります。その理由は、この不透明な時代にこそ「自主創造」を発揮できる人材が求められていると考えるからです。どのような局面でも挑み、乗り越え、あるべき自分を創ろうとする精神や行動こそが「自主創造」。皆さんの長い人生に必要な力であり、日本大学で一番に学んでほしいことでもあります。さあ、皆さんの未来を切りひらくために、「自主創造」の基礎をつくっていきましょう。

2 あなたのミライに必要なとなる 8 つの能力を示した「日本大学教育憲章」

どのようにすれば「自主創造」できるようになるのでしょうか。それは「日本大学教育憲章」の中に答えがあります。日本大学の卒業生が在学中そして卒業後も発展させていく能力を「日本大学マインド」として定義、そこに必要となる「自主創造」を実現するための 8 つの能力を明示しています。「日本大学教育憲章」は、皆さんにとっては目標であり、身に付けてほしい力である一方、日本大学が皆さんに提供する教育の約束でもあります。ここで示す力を皆さんが学修によって身に付けられるように、全学・学部・学科単位で毎年カリキュラムや授業の改善*を図っています。よりよい学修のために、共に歩みましょう。

授業の改善

日本大学では、教育内容・方法などをはじめとする研究や改善活動を大学全体として組織的に行う FD (Faculty Development) に積極的に取り組んでいる。教職員を中心とした活動のほか、学生視点で大学教育について話し合う場「日本大学 学生 FD CHAmMiT (P.18)」も開催し、活性化を図っている。

■ 日本大学教育憲章 概念図

日本大学マインド

- ◆ **日本の特質を理解し伝える力**
日本文化に基づく日本人の気質、感性及び価値観を身につけ、その特質を自ら発信することができる
- ◆ **多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力**
異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる
- ◆ **社会に貢献する姿勢**
社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる

自主創造

自ら学ぶ

- 1 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観**
豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる
- 2 世界の現状を理解し、説明する力**
世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる

自ら考える

- 3 論理的・批判的思考力**
得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる
- 4 問題発見・解決力**
事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる

自ら道をひらく

- 5 挑戦力**
あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる
- 6 コミュニケーション力**
他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる
- 7 リーダーシップ・協働力**
集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる
- 8 省察力**
謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる

3つのマインドを実現するための
8つの能力

自主創造を支える
3つの構成要素



社会で生きる学びのために

1 日本大学の授業科目は、知識とそれを活用する能力を組み合わせた形式が基本！

1 科目の中で、講義とグループワークを代表とした体験型学修を組み合わせた授業を展開。

各科目の授業は、「知識」を活用するための「能力形成」を踏まえて設計されています



単なる表面的な知識ではなく、生きた知識とそれを活用する能力を、日ごろの授業を通じて自然に身に付けていくのが日本大学の教育です。

授業の成長ポイント1

1 科目の中で、実践的な能力も磨かれていく

●一般的な科目の授業は…

科目 A 講義型授業 (知識重視)



科目 B グループワークなどの体験型授業



知識を得る科目と、能力開発の科目と、意識して両方履修しなければならない…



●日本大学の授業だと…

科目 A



科目 B



履修する科目ごとに、知識とそれを活用する能力が同時に身に付き、蓄積される！



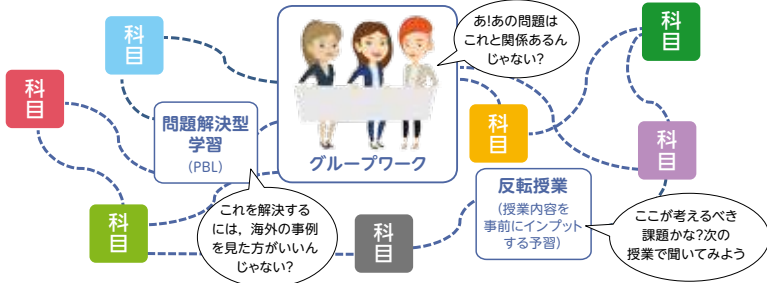
授業の
成長ポイント2

知識と知識をつなげる、
「知識を運用する力」が育つ

一般的な講義型授業（知識重視）では、科目で得た知識が孤立しがち…



グループワークを代表とした体験型授業を
組み込んだ授業（知識を活用する能力を重視）

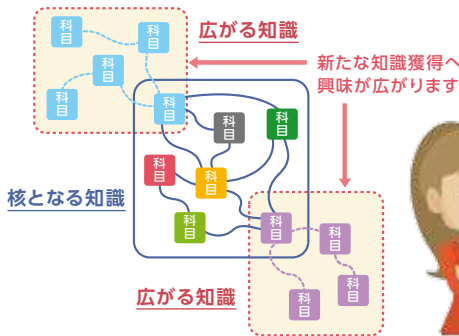


「体験型」の授業形態では、活発な意見交換などによる「知識を活用する能力」獲得によって、知識が「定着」し、しかも科目間の知識がつながる。

➔ 知識を「運用する力」も身に付く！

授業の
成長ポイント3

知識を「自分のものにする」
ための学びにできる！



科目と科目は
どうやら関連がある
みたいだね! 今度は科目と、
これにつながる科目を
履修してみようかな

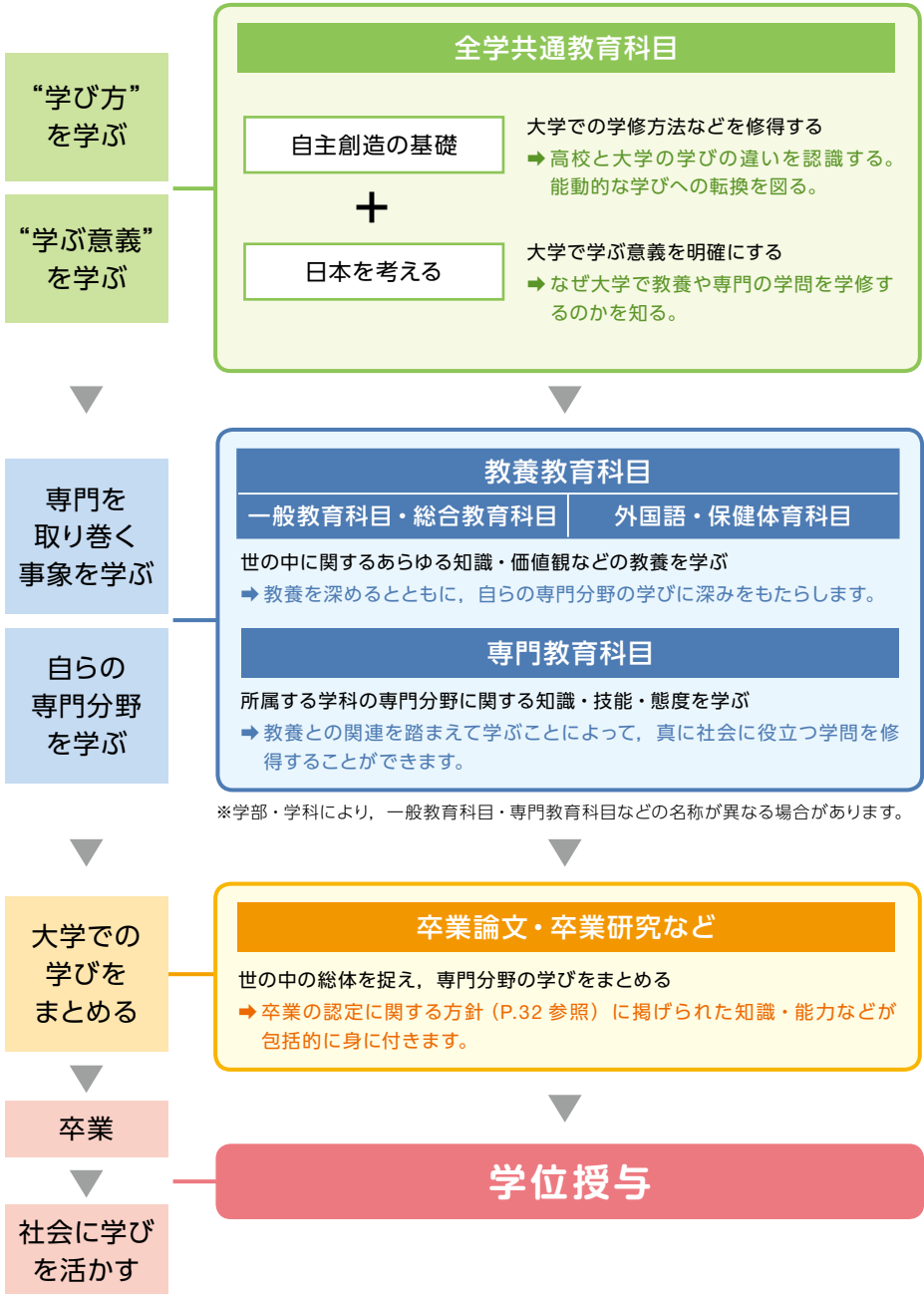
もっと知りたい! 学びたい!

この繰り返しを、
学びを無限に広げる!

関心を広げてみると学びがおもしろい。次に学びたいこと、学ぶべきことなど「学びのキーワード」が見つかる。

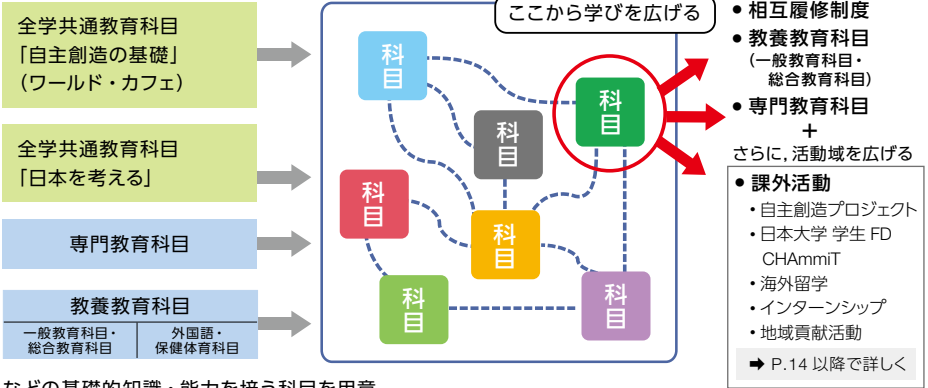
➔ あなたオリジナルの学びが実現可能！

2 日本大学の学びの流れと全体像



3 授業から様々な視点を得て、もっとアクティブに学ぼう！

日本大学では、



などの基礎的知識・能力を培う科目を用意

全学共通教育科目や各学部の教養教育科目で“学びのキーワード”を見つけ、自ら学びの世界を広げていこう！

結論！

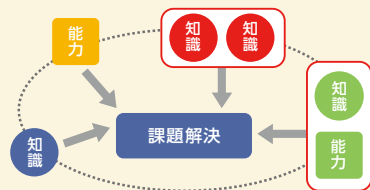


日本大学の授業は、
「社会で生きるチカラ」を育てる

❖ 社会の課題に向き合う、使える知識と能力

学問は、自然、社会や人が生きる暮らしから生まれたものであり、大学での学びはすでに社会に直結しているのです。しかしながら、社会に出ると大学で学ぶよりもさらに複雑で、正解のない課題があふれています。ですから幅広い知識・能力、または体系化された知識・能力をフルに活用して、課題に向き合うことが求められます。

そのため、日本大学では“社会で使える知識・能力”を身に付けられるように、授業を実施しています。





8つの能力を育てるために、 様々な学び・体験の場を活用しよう

1 自ら学び、知識を蓄え、視野を広げよう

❖ 体験型学修で、生きた知識を吸収する

8つの能力は、机に向かって書物を読み、講義を受けるだけでは得られません。P.12で示した体系的で多様な科目を履修するとともに、アクティブ・ラーニング*、フィールドワーク*などの体験型学修によって生きた知識も蓄え、より多くのものを見て吸収しましょう。

❖ 専門科目だけじゃない、教養教育科目の重要性

大学では専門教育科目だけでなく、教養教育科目*（一般教育科目・総合教育科目や外国語科目など）を広く学びます。学年を追うごとに専門教育科目が増えていきますが、その時に社会のしくみや国際情勢など、より多くの知識や視点を得るために教養が必要となります。「関心のあることだけを学びたい!」と思う人もいるでしょうが、関心のあることをもっと深く広く学ぶためにも、新たな関心に気づくためにも、社会で豊かに生きていくためにも、教養を身に付けることは重要なのです。

❖ 相互履修制度を活用しよう

「相互履修制度」は他学部・他学科の授業を受講できる制度。例えば文理学部で化学を学ぶ学生が、生物資源科学部で食品と化学物質の関係について学ぶなど、自分の専門領域のフィールドを広げ、応用力を養うことができます。また他学部のキャンパスで受講するため、他学部の学生や教員と交流する機会にもなります。多様な学部がある日本大学ならではの、学びのスケールと充実感が得られることでしょう。

アクティブ・ラーニング

反転授業、グループワークなどを代表例とした能動的な学修の総称。主体的に取り組み、他者と対話し学ぶことによって、知識だけではなく、社会的能力や経験などの汎用的能力の向上に有効とされている。

フィールドワーク

研究に関連する場所や調査対象がいる場所に実際に赴き、インタビューやアンケート、資料収集などを行う調査法のこと。

教養教育科目

「一般教育科目または総合教育科目」「外国語・保健体育科目」を指す（P.12参照）。また、「全学共通教育科目」も含む。卒業するためには、学部・学科の専門分野である「専門教育科目」の他に、これらの科目群からの履修も必要となる。これらの科目は専門分野を学ぶ上でも、多角的な視点を得るためにも重要である。

※「一般教育科目」「総合教育科目」は同目的の科目群。学部によって名称が異なる場合もある。

2 自ら考える力、 切りひらく力の土台を築く

❖ 全学共通教育科目「自主創造の基礎」

全学部共通で1年次に開講される科目です。「自主」性を育て、「創造」性へのステップとなる、「学び方を学ぶ」授業が展開されます。グループワークやディスカッションなど能動的な学修スタイルで、「自ら考え」、他者に伝えることを習練するとともに、学びに取り組む姿勢、他者と協働するスキルを学びます。大学での学び方の基礎が身に付き、その後の課題や自分の能力を発見する機会になることでしょう。

❖ 1年次生約16,000人が集う、「ワールド・カフェ」

「自主創造の基礎」の授業の中で行われるのが、「日本大学ワールド・カフェ」です。一番のポイントは、全学部の1年次生が集い、語らう場であること。多くの学生から「刺激を受けた」という声が届いています。

➡ ワールド・カフェについては、P.42で詳しく

❖ 「自ら道をひらく」一歩になる、 「自主創造プロジェクト」

もっと学生の興味や活動を広げる機会を提供しようと、令和元（2019）年にスタートした「日本大学自主創造プロジェクト」。学生の自主的な“やってみたい!”プロジェクトについて応募・選考*を経て大学が補助金を支給、バックアップをします。自らの力で、文化の進展やSDGs*に取り組んだり、専門分野の学修に生かせる形にするなど、あなたが成長する一歩になるはずです。

➡ 自主創造プロジェクトについては、P.19で詳しく

自主創造プロジェクトの 応募・選考

日本大学の学生で、2学部以上かつ5名以上のグループが応募条件。選考の上、10～30万円の補助金が給付される（P.19参照）。

SDGs

2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までに達成すべき、持続可能な世界を実現するための国際目標のこと。貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会などの諸問題に対し、17のゴール・169のターゲットが設定されている。

3 自分の殻をやぶって、自ら道をひらき、広い社会や世界に出よう

❖ 学生の視点から、大学での学びを考える 「日本大学 学生 FD CHAmmit」

日本大学が推進する大学の授業をより良くするためのFD (Faculty Development) 活動の一つに学生が自ら企画・運営する「CHAmmit」があります。大学教育に対して自らの声を届けることや、仲間と共に行う年間を通じた活動は、大きな達成感と自信につながります。

➡「日本大学 学生 FD CHAmmit」については、P.18 で詳しく

❖ 海外留学で、経験や語学力を高める

本学には様々な留学プログラム*があり、多くの場合は単位として認定されます。海外留学は、多様な文化や価値観にふれる貴重な機会です。海外留学は「自主創造」そのものです。

❖ 職業選択を考える機会となるインターンシップ

学生のうちに、企業で働く体験ができる制度。希望する業種の職場で実習をすることにより、実際の仕事の内容や「働く」ことへの理解が深められるメリットがあります。学びのモチベーションにもつながります。

❖ 地域貢献活動・クラブ&サークル

学びを地域に還元する活動やボランティア、クラブ・サークルなどの課外活動も、社会生活を知り、対人関係を築くきっかけに。経験は社会に出た後の力になります。



留学プログラム

アメリカ、カナダ、イギリス、韓国、中国など33か国1地域128大学など（令和2年1月現在）と学術交流協定等を結び、交換留学を行っている。その他、短期海外研修、認定留学、海外ボランティアなど多様なプログラムや奨学金を含めたサポートがある。自分にどんなプログラムが合うか、相談して欲しい。（窓口：学務部国際交流課）

インターンシップ

企業実習。在学中に企業などで業務の実習を体験すること。希望する職業の内容を実際に理解し、学生と就業先との認識の相違を解消して、自らのキャリアを描けるという利点がある。

Message
メッセージ卒業後になりたい
姿を思い描いて学ぶ医学部2年 山本 尚子
(取材当時)

幼少期から医師という職業に漠然とした憧れを抱いていました。医師になる夢が、より明確な目標へと変わったのは、親族が認知症を発症し、その介護や治療に関わる医療従事者と接するなかで、自分も認知症を患う患者さんや家族のため、臨床や研究に従事したいと思ったからです。

医学部に入学後は、「医学を極めるにあたり、広い視野を持って何事にも挑戦しよう」と改めて決心し、日々の授業は当然のこと、部活などの課外活動へも積極的に参加するよう心掛けています。

英語の課外活動もその一つです。以前から留学に興味があったので、1年次から毎週、ネイティブスピーカーの講師による、英会話と外部検定試験（IELTS）対策の講座に参加しています。講師の先生に4技能の指導を仰ぐほか、留学するには何が必要か、日常生活における自学自習のアドバイスも受けていました。

そうした活動がご縁を引き寄せたのかもしれませんが、2年生の夏に英語の先生から、本学を卒業され、現在米国の大学関連病院で医師として働いていらっしゃる先生を紹介していただき、その先生の下で1週間研修させていただく機会を得ました。米国では、先生のご専門である移植手術を見学させていただいたり、先生の研究室で学ばれている学生の方や若手医師に混じって研究の討議に参加させていただいたりしました。この経験を通して、知識量はもとより、学びへの意欲、そして新しい事実を追究する貪欲さに世界との大きな差を感じ、ゆくゆくは彼らと同じフィールドで、仕事に情熱を注げる医師になりたいと強く思いました。

帰国後は英語の教科書を併用するなど、世界の基礎医学における常識を意識しながら、毎日の学習に努めるようになりました。また平日は授業と部活で、放課後に十分な学修時間がとれないため、始業前や空いた時間を有効活用して予習・復習に励みつつ、興味のある医学書や論文を英語で読むようにしています。今は学部の試験や国家資格のための勉強が最優先ですが、卒業後にどんな医療人になりたいか、その姿を見据えて、これからも学生生活に邁進していきたいと思えます。

あなたの行動が大学を変える?! 「自主創造」を支援する全学的なプログラム

日本大学 学生 FD CHAmmit

ちやみっと

「CHAmmit」は、「CHAT (チャット)」のように、気軽に話そうをコンセプトにして、全学部から学生が参加し、教員、職員も加わって、所属やキャンパス、立場を超え垣根なく、大学の教育や授業について意見交換する、学生主体のイベントです。



CHAmmitに参加するには？

CHAmmitの企画・運営学生スタッフと、イベント当日の参加者を公募しています。詳しくは、日本大学FD推進センターのホームページを確認してください。



詳しくはこちらから

学生の声を届ける教育改善の取組 ～学生FD活動～



〈文理学部〉学生発案型授業（プロジェクト教育科目）が企画され、「人間関係とこころの社会学ー“生きづらさ”について話し合う」（令和2年度）というテーマで、複数の教員によるオムニバス形式の授業を実施しました。

〈生産工学部〉しゃべり場「他学科って何してる？」など、多様なイベントの開催とともに、ポスター、学部ホームページ、学部Twitter、学部広報誌「SPRING」を通じて活動内容を発信しています。



日大生のやってみたくを実現するプロジェクト

－「日本大学自主創造プロジェクト」－

❖ 自主創造プロジェクトとは？

みなさんが日頃、他の学部の人と協力してあんなことをしてみたい、こんなことをしてみたいと思うことはありませんか。何かしたくてもお金も必要、実際行動に移すにはいろいろと障害があり、実現が難しいのではないのでしょうか。



富士山清掃活動とアート製作を通じた環境保全推進活動

日本大学ではそんな皆さんの夢をサポートします！

教育理念「自主創造」の実現に向けて、「自ら学ぶ、自ら考える、自ら道をひらく」能力を実践の場を通じて育む機会を与えています。多様性に対する気づきを与え、皆さんの学修をより深化させることを目的として様々な取組を支援しています。令和元年度は、60プロジェクトの応募があり、33のプロジェクトが採択。採択されたプロジェクトには10～30万円程度、最高100万円（プロジェクト内容等による）の補助金が支給されます。

❖ どんなことができるの？（令和元年度）

プロジェクト名	参加学部
雪かき・雪下ろしプロジェクト	法・経済・危機管理・生産工
卒業生と新生を繋ぐ、家具バンク	商・生産工
防災教育関連の絵本を作ろう！	芸術・生産工
日大出身の社長に突撃取材～学生のあれこれに答えて下さい～	文理・危機管理
日本の世界文化・自然遺産の環境改善	生産工・生物資源科

自主創造プロジェクトに応募するには？

日本大学ホームページ記載の内容を確認、「応募資格」などを満たせば、どなたでも応募可能です。募集時期は毎年1月～4月ごろです。詳しくは、日本大学ホームページを確認してください。

※募集内容は変更となることがあります。



詳しくはこちらから



能力診断チャートで、
あなたの8つの能力を
確認してみよう！

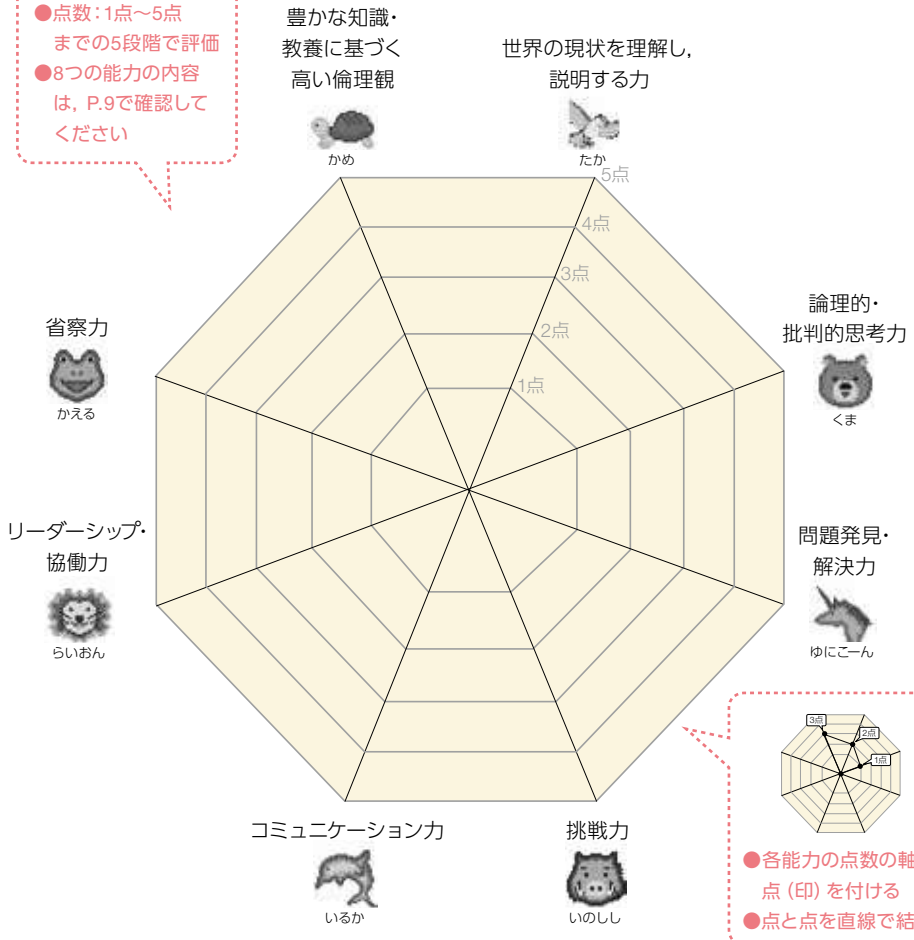


■ 今のあなたの8つの能力は何点？ 進級などのタイミングで、
再チェックすれば、あなたの努力や学びの成果が目に見える！

8つの能力	1回目(入学時) の点数	2回目 の点数	3回目 の点数	4回目 の点数
豊かな知識・教養に 基づく高い倫理観  かめ	/ 5	/ 5	/ 5	/ 5
世界の現状を理解し、 説明する力  たか	/ 5	/ 5	/ 5	/ 5
論理的・批判的思考力  くま	/ 5	/ 5	/ 5	/ 5
問題発見・解決力  ゆにこーん	/ 5	/ 5	/ 5	/ 5
挑戦力  いのしし	/ 5	/ 5	/ 5	/ 5
コミュニケーション力  いるか	/ 5	/ 5	/ 5	/ 5
リーダーシップ・ 協働力  らいおん	/ 5	/ 5	/ 5	/ 5
省察力  かえる	/ 5	/ 5	/ 5	/ 5

自分の得意なところ、苦手なところ、伸ばしたいところを知る上でグラフ化してみよう！

- 点数：1点～5点
までの5段階で評価
- 8つの能力の内容は、P.9で確認してください



左表のチェックした回ごとの点数を、上の能力診断チャートに書き写してみよう！
 筆記具の色や点(印)の形を★, ■, ◇などに変えて書き込めば、チェックを重ねて伸びたあなたの能力が一目瞭然！

※この能力診断チャートは、「日本大学 学生FD CHAmmit2018」で考案されたものをヒントに作成しています。動物は、各能力を感覚的に捉え、あてはめたもの。これも学生のアイデアです。



あなたなら、どんなミライに
向かって何を学ぶ？
さあ、大学生活を計画しよう！



■ 「自主創造」できる人を目指して、目標を書いてみよう

1 入学前の日本大学のイメージは？ 入学した理由を書いてみよう

2 P.20, 21 を踏まえて、8つの能力のうち高い能力、
低い能力を挙げてみよう（複数可）
それはなぜなのか、自分自身で理由を分析してみよう

3 学びの計画 (どんなことを学び、研究する?)

4 活動の計画 (どんなことに挑戦する?)

5 卒業後の目標・職業などどんな人間になりたい? (何でも書いてみよう!)



あなたの成長記録

1年ごとに自分を振り返ろう！



■ P.23の計画やあなたの目標を振り返って、
達成できたこと、成長できたことを書き留めよう

1 年次	
2 年次	
3 年次	
4 年次	
5・6 年次 (6年制 学部のみ)	

日大生の 必 須 情 報 02



あなたのミライツクル 強力な進路サポート

あなたの理想の人生とは？

皆さんの人生は卒業後の方が長い道程です。皆さんは、自分自身が今後の人生をどのように生きていくのか想像したことがありますか。これを疎かにして、卒業した後に「こんなはずじゃなかった」という声を聞くことがよくあります。

今後の人生なんて考えたこともない！という方、大丈夫です。大学にいる間に自分の軸となるものを見つけていきましょう！そのためのサポート体制が日本大学にはあります。

ここから始めよう！

まずは、卒業した後の自分を想像することから始めてみましょう。皆さんが「何をやりたいか」「何になりたいか」という軸となるものを自分自身で考えることが一番重要です。そして、将来なりたい自分になるために、一つでも良いので「自分はこれをがんばった!」「自分はこれに力を注いだ!」というエピソードが話せるように学校生活を充実させましょう。この経験は、就職活動の際に皆さんの武器になるとともに、社会人になった時に必ず役に立ちます。

約 120 万人の頼れる味方がついている

日本大学の卒業生は約 120 万人いて、数々の先輩たちが社会で活躍しています。

また、専任の就職支援スタッフ数も全国の大学でもトップクラスで、各学部との連携により強力な支援体制を整えています。

これらの卒業生やスタッフは、皆さんが未来に向き合うとき、味方になる人たちです。

豊富な就職情報「NU 就職ナビ」

日本大学の学生だけが利用できる就職情報システム「NU 就職ナビ」があります。毎年1万件以上の求人情報の配信、約8万件の企業情報や OB・OG 情報、先輩たちの就職活動の記録など、就職活動に役立つ情報が掲載されています。

他にも、公務員対策講座や資格取得講座など、キャリアアップを図る各種プログラムも用意しています。学部ごとに数多くの講座やプログラムを開催していますので、積極的に利用し、キャリア・スキルアップを目指しましょう。



日本大学の歴史

— 建学の経緯を学んで
本学の特色を理解しよう! —



❖ 日本法律学校として設立

日本大学の前身である日本法律学校は、明治 22 (1889) 年 10 月 4 日に創立されました。大日本帝国憲法が公布され、また欧米の近代法を取り入れた刑法・民法・商法などの諸法典も整備されつつある時期でした。

司法大臣の山田^{あきよし}顕義は、それまでの欧米諸国の法律を学ぶことが主流の法学教育に疑問を持ち、日本の伝統・慣習・文化を踏まえた日本の法律を教育する学校構想を抱いていました。

同時期、宮崎道三郎・金子堅太郎などの若き法律学者たちも、日本法学教育の必要性を認識し、山田とは別に日本法律学校設立構想を進めていました。同様の構想を進めていることを知った山田は、宮崎らを全面的に支援し、日本法律学校は創立されました。

現在、日本大学では、創立に関わった法律学者など 11 名を創立者とし、彼らを全面的に支援した山田顕義を学祖として顕彰しています。



設立者総代
宮崎 道三郎



初代校長
金子 堅太郎

❖ 学祖 初代司法大臣 山田顕義の活躍

山田顕義は、弘化元 (1844) 年、長門国萩 (現山口県萩市) で、山田顕行の長男として誕生しました。吉田松陰の松下村塾に入門し、幕末から明治初年にかけては、軍人としての才能を発揮します。特に戊辰戦争では、新政府軍を率いて、東北諸藩および箱館五稜郭の旧幕府軍平定に功績を挙げました。

明治 4 (1871) 年、岩倉使節団に理事官として随行し、欧米諸国の軍事制度を調査研究します。

帰国後は、司法省に勤務して近代法整備に尽力しました。その後、参議兼工部卿、内務卿、司法卿を歴任し、明治 18 (1885) 年、内閣制度発足に伴い、初代司法大臣に就任しました。



学祖 山田顕義

教育面では、明治22(1889)年には皇典講究所所長に就任し、同所内に日本法律学校を創立しました。

明治25(1892)年11月、山口亀山における旧藩主毛利敬親等銅像起工式出席の帰路、生野銀山(現兵庫県朝来市生野町)を視察中、49歳で急逝しました。

❖ 創立の目的

日本法律学校の創立目的は「日本法律学校設立主意書」に記載されています。これを要約すると、(1)日本の法律は新旧を問わず学ぶ、(2)海外の法律を参考として長所を取り入れる、(3)日本法学という学問を提唱するという3点です。

欧米法教育が主流な時代にあって、日本の法律を教育する学校の誕生は、大いに独自性を発揮することとなりました。



日本法律学校広告

❖ 千代田区に校舎建設

日本法律学校開校当初は、飯田町(現東京都千代田区飯田橋)にあった皇典講究所の一室を借りて授業が開始されました。明治23(1890)年には國學院(現國學院大學)も同所に創立されたため、昼は國學院、夜は日本法律学校が同じ場所で授業を行いました。



明治期の校舎

明治29(1896)年、日本法律学校は神田区三崎町(現千代田区神田三崎町)に初の独立校舎を取得しました。これが現在の法学部本館のある場所です。

❖ 日本法律学校から日本大学へ

明治36(1903)年、日本法律学校は、校名を日本大学として大学組織に改め、翌37(1904)年、専門学校令による認可を受けました。

大正9(1920)年、大学令による大学となり、本学は総合大学への道を歩むこととなります。昭和24(1949)年、新制大学として再出発した本学は、「日本大学の目的および使命」を制定して戦前の教育体制の見直しと組織基盤の整備を進め、多様な学問分野を有する総合大学として今日に至ります。(企画広報部広報課)